



祐介の目

No.119

大田祐介 (福山市議会議員)

昭和18年アリユールシャン列島キスカ島からの撤退作戦も素晴らしい。隣のアッツ島が三千名弱の戦死者を出して玉砕した事から、樋口はキスカ島撤退を強硬に主張して実行し五千名を

樋口季一郎ワイン

陸軍中将・樋口季一郎の再評価が全国的に進んでいる。7月9日には顕彰会設立シンポジウムも開催され、樋口の功績の意義について議論が交わされた。樋口は昭和8年、10年にかけて歩兵第41連隊の連隊長を務めており、福山市とも所縁の深い人物である。当時の直属の部下であった相沢三郎中佐が刺殺した永田軍務局長が生きていれば日本は戦争を回避したとも言われている。昭和史の転換点となった相沢事件と樋口連隊長の存在をほとんどの福山市民が知らないのは残念だ。

昭和12年、樋口は福山から満州国特務機関長に転任し、欧州発シベリヤ鉄道経由で逃れてきたユダヤ人難民を満州国に受け入れ、上海租界に脱出させる通称ヒグチルートを作った。命のビザを書いた杉原千畝は六千人を救ったが、ヒグチルートは二万人が通過したと言われている。

超える将兵の命を救った。当時の日本軍に撤退とか降伏という文字は無く、この作戦に対する評価が低い一方で、裏をかかれた米軍はパーフェクトゲームと称賛した。

最大の功績は終戦後の8月18日にソ連が樺太や千島列島に侵攻した際に断固反撃命令を下した事だ。戦後の混乱に乗じて火事場泥棒を働くソ連の山口をインテリジェンスの専門家・樋口は熟知していた。ソ連崩壊後に公開された機密文書によればスターリンは北海道を占領するつもりであり、日本が朝鮮半島や東西ドイツのように分断国家となるのを樋口は阻止したのだ。

戦後76年、日本人は軍人＝悪という呪縛に支配されてきた。顕彰会はユダヤ人を救い、日本を救った樋口の軍服姿の銅像を建立し、日本人の名誉と誇りを取り戻そうという計画だ。私も樋口の肖像画入りのワインを作り売上を寄付したい。そのワインは「ヒグチルート」だ。